

＜今日の説教のポイント 使徒言行録 2章＞

①先週のおさらい — 聖霊降臨前の弟子たちも信仰的だった！

先週、聖霊降臨の出来事が起こる直前の弟子たちが祈り熱心で、今なすべきことに真剣に取り組む人々であったことを学びました。だとすると、聖霊降臨の出来事でルカが伝えようとしたことは何なのでしょう？ 驚きを覚えさせられる現象に目を奪われるのではなく、聖書全体が聖霊についてどのように語っているのかを知る必要があります。

②この箇所全体で伝えようとしていること — 弟子たちの大胆な宣教開始

まず、出来事が記された使徒言行録 2 章全体で一番強調されていることは何でしょうか？ それははっきりしています。弟子たちが大胆に「イエス・キリストは神から遣わされた方である」(22)と伝え出したこと、すなわち弟子たちによる宣教の開始です。これがルカが一番伝えたいと思ったことです。すなわち、聖霊が降って起こったことです！

③聖霊について、他の聖書箇所ではどのように記されているのか？

次に、聖書の他の箇所では、聖霊はどのように記されているのでしょうか？ 二つ挙げておきます。1) 聖霊はイエス様の重要性について私たちの目を開かせるということです。「**その方はわたしに栄光を与える**」(ヨハネ福音書 16:14)。2) 私たちが主イエスを信じる時、もうそこに聖霊は働いているということです。「**聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです**」(Ⅱコリント 12:3) (使徒 2:38 も)。

④私たちはもう聖霊に導かれている！ この幸いを伝えて行こう！

よって、聖霊が与えられることとペンテコステの日の出来事が持つ意味とは分けて考えた方がいいでしょう。私たちが聖書の信仰に導かれていくとき、すでに聖霊が与えられている、すなわち、神様が聖霊によって働き出して下さっているのです。そして、それは、「**イエス様を心で信じ、口で公に言い表し**」(ローマ 10:9-10)、ついにその喜びを世界中の人々に伝えずにはおれなくなるのです。それがペンテコステの日の意味ではないのでしょうか。私たちには世で苦難がある。しかし、主が既に世に勝利しておられることを思って、私たちも勇気を出して生きて行けるのです (ヨハネ福音書 16:33 から)。大きな恵み、大きな福音です！